

## (9) 四国



四国地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きが続いている。

### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 8 月）	今回（平成 17 年 11 月）	
住宅建設	減少	おおむね横ばい	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	持ち直しの動きが続いている	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

パルプ・紙は、新聞巻取紙が増加したものの、印刷用紙（塗工）や段ボールシートなどが減少したため、全体では横ばいとなっている。食品・たばこは、需要の落ち込みにより清涼飲料などが減少したことに加え、冷凍調理食品の海外への生産シフトにより、4 四半期連続で減少している。電気機械は、デジタル機器向け需要の増大や、国内設備投資の好調に支えられ、蓄電池や開閉制御装置が増加している。化学は、前期の定期修理の反動により高純度テレフタル酸が増加したものの、メチルクロロフォルムなどが減少したため、減少している。一般機械は、需要の一巡などにより、固定式クレーンやジブクレーンが減少している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成17年9月の四国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

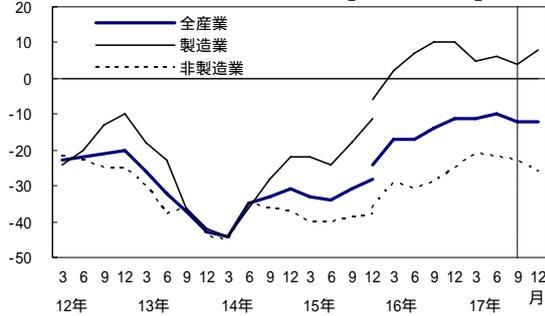
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
パルプ・紙	13.3	1.2	0.1	0.4	1.4
食品・たばこ	13.3	13.5	2.2	1.7	4.8
電気機械	12.8	5.3	9.6	15.0	45.4
化学	12.7	0.1	1.4	1.3	2.6
一般機械	11.3	1.2	5.4	14.9	1.8
鉱工業	100.0	2.8	0.4	2.2	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

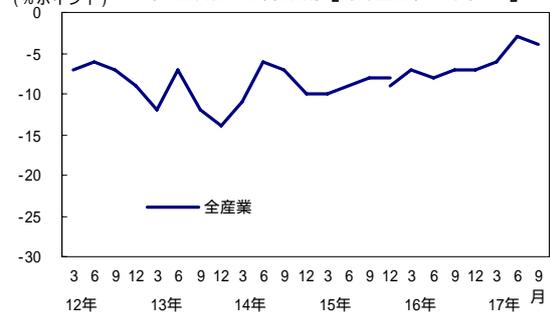
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



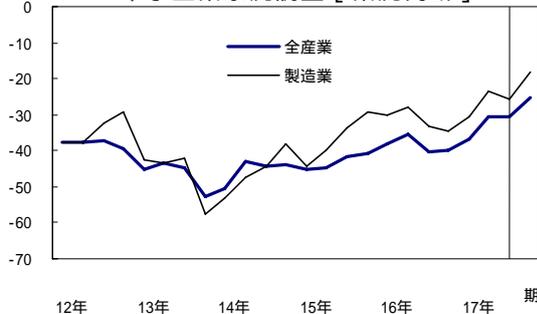
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年12月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「主要産業である土木・建設業者が、公共工事の減少から引き続き振るわず、それに応じて、小売業なども好調とはいえない(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

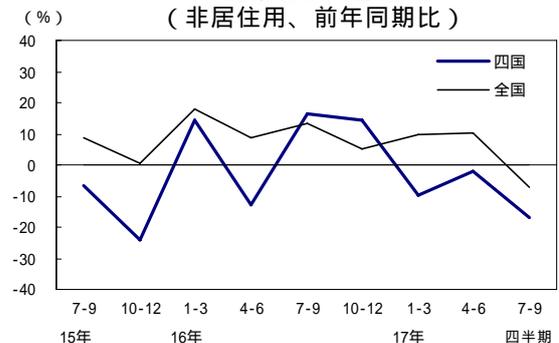
(3) 17年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度概
全産業	4.3	1.6[ 3.7]
製造業	8.5	5.7[ 14.4]
非製造業	12.6	7.6[ 5.0]

(備考)[ ]は前回(6月)調査結果。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

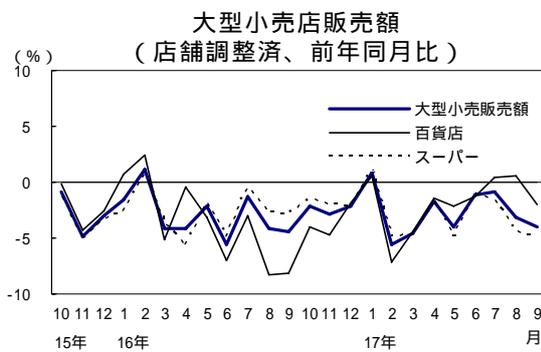
百貨店は、7月は、美術工芸品などの高額商品が好調だったほか、セールやクールビズ効果などにより、身の回り品や衣料品が好調に推移したことから6か月ぶりに前年を上回った。

8月は、昨年より比べ日曜日が一日少なかったものの、引き続き美術工芸品などの高額商品や化粧品が好調だったことから、2か月連続で前年を上回った。9月は、催事効果などにより、その他の商品が前年を上回ったものの、残暑の影響で秋物衣料品などが低調であったことなどから、3か月ぶりに前年を下回った。なお日本百貨店協会によると、四国地区の10月の売上高は、前年同月比で0.2%減となっている。

スーパーは、セールやクールビズ効果による衣料品に加え、水不足により湯水対策商品が好調だったものの、野菜などの相場安の影響などで、主力である飲食料品が苦戦したことなどから前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

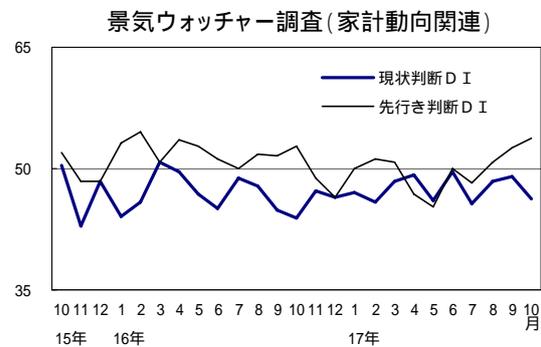
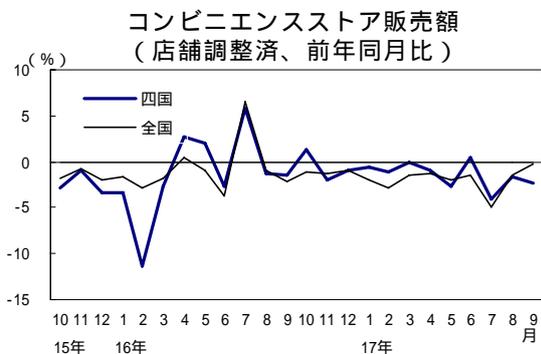
「新型車が発売になり、来客数と販売量の増加を見込んでいたが、期待を下回っている。また、即決で購入する客は少なく、じっくり検討してから購入するという消費動向がうかがえる(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同月比、%)			
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.4	2.9	2.3	2.6
百貨店	3.3	3.3	1.6	0.2
スーパー	1.9	2.7	2.6	3.5
コンビニ	0.5	0.5	1.0	2.7
景気ウォッチャー	45.9	47.1	48.3	47.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

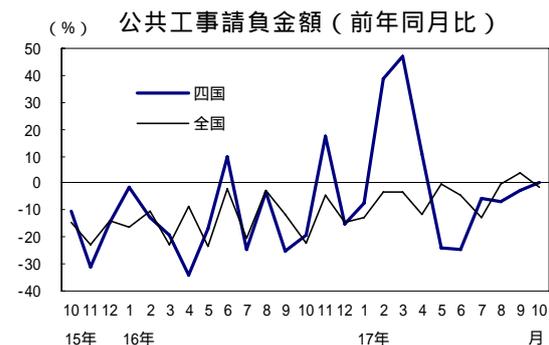
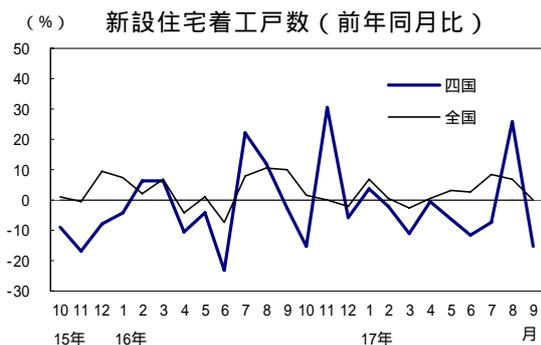
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



### (2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家、貸家が前年を下回ったものの、分譲が前年を上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

### (3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

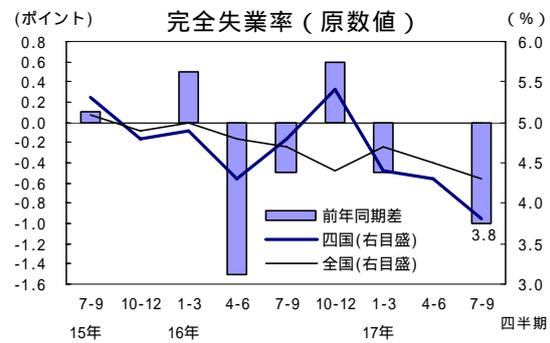
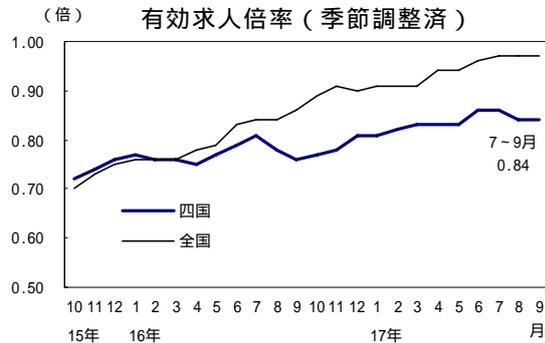


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

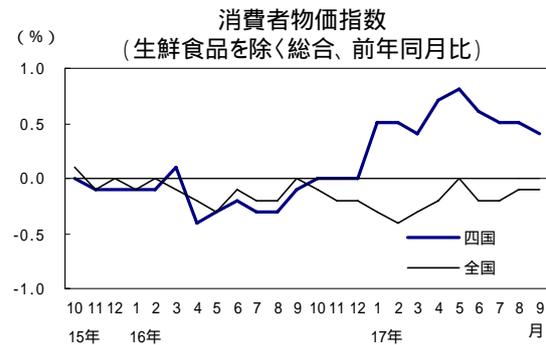
「求職登録者数は、前年比では微減で推移しており、現職での登録者はやや減ってきている。また、再就職支援の企業からの依頼も減ってきており、一部の業種を除き、リストラが落ち着いてきている (民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月	17年10月
倒産件数	94	88	80	77	22
(前年比)	5.6	17.0	11.1	16.3	26.7
負債総額	194	322	194	315	31
(前年比)	26.1	0.0	11.5	131.4	46.3



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・以前はほとんどなかった企業からの大口の注文が増加している (一般小売店 [書籍])。

<先行き>

・ガソリン価格の高騰のため、燃費の良いハイブリット車への魅力が出ており、販売台数増加への期待が持てる (乗用車販売店)。

景気ウォッチャー調査 (合計)

